

教科(科目)	国語表現	単位数	4	学年(コース)	3学年(「地域探究・教養」コース選択)
使用教科書	大修館書店『国語表現 改訂版』				
副教材	尚文出版『国語必携 ライトパーフェクト演習』『常用漢字ダブルクリア』				

1 科目のねらい

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

2 学習計画

時期	授業計画と授業内容	時期	授業計画と授業内容
1 学期 中間 考査	<ul style="list-style-type: none"> ○書いて伝える <ul style="list-style-type: none"> ・整った文を書く(4時間) ・わかりやすい文を書く(4時間) ・文のつながり方(4時間) ○「自己紹介文」を書く(5時間) ○漢字・語句の学習(3時間) 	2 学期 期 末 考査	<ul style="list-style-type: none"> ○メディアを駆使する <ul style="list-style-type: none"> ・電話を使いこなす(6時間) ・ネット社会とコミュニケーション(7時間) ・メディアと情報(7時間) ○ショートスピーチ(7時間) ○漢字・語句の学習(5時間)
1 学期 期 末 考査	<ul style="list-style-type: none"> ○小論文・レポート入門 <ul style="list-style-type: none"> ・小論文とは何か(4時間) ・反論を想定して書く(4時間) ・文章を読み取って書く(5時間) ○「志望理由書」「履歴書」の書き方(7時間) ○漢字・語句の学習(4時間) 	学 年 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ○表現を楽しむ <ul style="list-style-type: none"> ・言葉で遊ぶ(10時間) ・詩歌を楽しむ(10時間) ・エッセイを書こう(10時間) ○漢字・語句の学習(6時間)
2 学期 中 間 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ○自己PRと面接 <ul style="list-style-type: none"> ・自分を見つめて(4時間) ・効果的な自己PR(4時間) ・将来の自分を考えよう(4時間) ・面接にチャレンジ(4時間) ○メディアを駆使する <ul style="list-style-type: none"> ・通信文を書き分ける(8時間) ○漢字・語句の学習(4時間) 		

合計140時間(50分授業)

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
①関心・意欲・態度	②話す・聞く能力	③書く能力	④知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し合ったり、聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	相手や目的に応じた適切かつ効果的な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	言葉の特徴やきまり、役割などについての理解を深め、知識を身につけている。
(評価の方法) ・学習活動への参加姿勢や態度。 ・プリント、ワークシート等	(評価の方法) ・学習活動における発言内容や態度。 ・スピーチ	(評価の方法) ・プリント、ワークシート、紹介文、論文、エッセイ等の作成した文章。	(評価の方法) ・プリント、ワークシート ・定期考査、小テスト

4 教科担当者から一言

授業での課題提出が最も重視されます。国語常識を学びながら、書く力だけでなく、話す力を身につける練習もします。受け身の姿勢でなく、積極的に授業に参加することを求めます。漢字や語句について小テストを行うこともあります。言葉の知識を増やし、社会に出たときに役立つ力を身につけましょう。

教科(科目)	現代文B	単位数	3	学年(コース)	3 学年
使用教科書	第一学習社『高等学校 改訂版 標準現代文B』				
副教材	①学研『現代新国語辞典』 ②尚文出版『常用漢字ダブルクリア』				

1 科目のねらい

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方・感じ方・考え方を深め、進んで読書することによって、人生を豊かにする態度を育てる。

2 学習計画

時期	授業計画と授業内容	時期	授業計画と授業内容
1 学期 中間 考查	<ul style="list-style-type: none"> ○世界を見つめる 「ワスレナグサ」(星野道夫) (5時間) ○小説を読む(一) 「話を聞かせて」(山本文緒) (8時間) ○言語活動 「情報の探し方」(2時間) 	2 学期 期末 考查	<ul style="list-style-type: none"> ○小説を読む(三) 「山月記」(中島敦) (12時間) ○短歌と俳句 「折々のうた」(大岡信) (8時間) ○言語活動 「意見文の書き方」(4時間)
1 学期 期末 考查	<ul style="list-style-type: none"> ○世界を見つめる 「食と想像力」(辺見 庸) (7時間) ○新しい視点 「記憶のゆがみ」(高橋 雅延) (8時間) ○言語活動 「報告文(レポート)の書き方」(3時間) 	学 年 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい視点 「物語を発現する力」(佐藤雅彦) (8時間) ○人間と社会 「経験の教えについて」(森本哲郎) (8時間) ○小説を読む(三) 「山椒魚」(井伏鱒二) (11時間)
2 学期 中間 考查	<ul style="list-style-type: none"> ○小説を読む(二) 「卒業」(魚住直子) (8時間) ○生への思索 「鏡としての他者」(榎本博明) (6時間) ○詩を味わう 「食事」「こころ」「日本海」(4時間) ○言語活動 「研究発表のしかた」(3時間) 		

合計105時間(50分授業)

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。				
①関心・意欲・態度	②話す・聞く能力	③書く能力	④読む能力	⑤知識・理解
国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場面に応じて効果的に話したり、的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身につけている。
以上の観点を踏まえ、①定期考查や課題テスト②各種小テスト(漢字、文法等)③提出物(ノート、課題等)④授業に取り組む態度、意欲⑤出席状況等を総合的に評価します。				

4 教科担当者から一言

皆さんは1年後には高校を卒業し、社会に旅立っていきます。社会人として恥ずかしくない「国語力」をしっかりと身につけるとともに、高校卒業後も進んで読書をし、人生をより豊かにしていくことができるよう、学習していきましょう。

教科(科目)	古典セミナー	単位数	2	学年(コース)	3学年(教養コース)
使用教科書	第一学習社『高等学校 改訂版 標準古典A 物語選』、第一学習社『高等学校 改訂版 標準現代文B』				
副教材	ベネッセ『全訳コンパクト古語辞典』				

1 科目のねらい

広く古典の作品に触れ、日本文化や古代人の生活を学び、古典を味わう姿勢を身につける。また、故事成語や文学史を含めた知識を増やし、学力の向上と定着を図る。現代語とのつながりや、文学史を学ぶことで国語への興味関心を高める。

2 学習計画

時期	授業計画と授業内容	時期	授業計画と授業内容
1学期 中間 考査	○古文編 物語(二)『平家物語』 「忠度の都落ち」「能登殿最期」(3時間) ○古文編 物語(二)『大鏡』 「雲林院の菩提講」「時平と道真」(3時間) ○漢文編 『項羽と劉邦』 「四面楚歌」(史記) (2時間) ○中世文学史の確認 (2時間)	2学期 期末 考査	○古文編 物語(三)『源氏物語』 「須磨の秋」 (4時間) ○古文編 日記 『蜻蛉日記』 (4時間) ○漢文編 諸家の思想 『孟子』「柔弱」「百谷王」 『莊子』「鷓鴣得腐鼠」「胡蝶の夢」 (5時間) ○俳句を学ぶ～近現代の俳句との比較 (3時間)
1学期 期末 考査	○古文編 物語(二)『大鏡』 「弓争い」「三舟の才」 (3時間) ○古文編 和歌 『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』 ・和歌と現代短歌の比較 (7時間) ○漢文編 『項羽と劉邦』 「四面楚歌」(史記) (2時間)	学年 末 考査	○古文編 日記 『紫式部日記』 (8時間) ○古文編 日記 『更級日記』 (6時間) ○故事成語と日本のことわざ (4時間)
2学期 中間 考査	○古文編 物語(三)『源氏物語』 「光る君誕生」「夕顔」 「若紫」「葵の上」 (10時間) ○漢文編 『諸家の思想』 『孟子』「仁人心也」「民父母」 (4時間)		

合計70時間(50分授業)

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

①関心・意欲・態度	②読む能力	③知識・理解
古典について関心を持ち、主体的に古語や古代人の生活、文化を学ぶ意欲を見せ、古典作品を味わう態度を身につけようとしている。	古語や漢文句法の正しい理解から、古典作品を読解し、作者や登場人物の心情について思考する力を身につけている。また、古語や韻文に対する適切な知識をもとに自分を創作したり、評価したりする技能を身につけている。	語句の意味・用法を的確に理解し、語彙を豊かにしている。また、古代人の考え方を理解し、現代につながる問題としてとらえている。

4 教科担当者から一言

古典は決して「昔のこと」ではなく、現代の私たちの生活の中にも生きています。古典の知識や語彙力を豊かにすることによって、今を生きるヒントを探り、未来の生活に役立てていきましょう。